平成 27 年 7 月 9 日
2018 及び 2019 会議室

平成 27 年第 13 回 立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

平成27年第13回立川市教育委員会定例会

1 日 時 平成27年7月9日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 2時38分

2 場 所 208及び209会議室

3 出席委員 福 田 一 平 田 中 健 一
平 山 いづみ 伊 藤 憲 春
小 町 邦 彦

署名委員 平 山 いづみ

4 説明のため出席した者の職氏名

教育長 小町 邦彦

教育部長 新土 克也

教育総務課長 栗原 寛

学務課長 田村 信行

指導課長 泉澤 太

学校給食課長 亀井寿美子

生涯学習推進センター長 浅見 孝男

図書館長 土屋英眞子

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 庄司 康洋 安藤 悦宏

案 件

1 議案

- (1) 議案第20号 立川市第2次学校教育振興基本計画 (案)
- (2) 議案第21号 立川市第5次生涯学習推進計画 (案)
- (3) 議案第22号 立川市第2次図書館基本計画 (案)
- (4) 議案第23号 立川市第3次子ども読書活動推進計画 (案)

2 報告

- (1) 東京ベーシックドリルについて
- (2) 平成27年第2回立川市議会定例会報告について

3 その他

平成27年第13回立川市教育委員会定例会議事日程

平成27年7月9日

208 & 209 会議室

1 議案

- (1) 議案第20号 立川市第2次学校教育振興基本計画(案)
- (2) 議案第21号 立川市第5次生涯学習推進計画(案)
- (3) 議案第22号 立川市第2次図書館基本計画(案)
- (4) 議案第23号 立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)

2 報告

- (1) 東京ベーシックドリルについて
- (2) 平成27年第2回立川市議会定例会報告について

3 その他

◎開会の辞

- 福田委員長 ただいまから、平成27年第13回立川市教育委員会定例会を開会いたします。
はじめに、署名委員の指名を行います。署名委員に平山委員、お願いいたします。
- 平山委員 承知しました。
- 福田委員長 次に、本日の議事内容を確認いたします。本日は、議案4件、報告2件でございます。協議案件はございません。その他は議事進行過程で確認いたします。
次に、出席者の確認を行います。新土教育部長、お願いいたします。
- 新土教育部長 本日の立川市教育委員会定例会の出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

◎議 案

(1) 議案第20号 立川市第2次学校教育振興基本計画(案)

- 福田委員長 それでは、議案に入ります。
議案(1)議案第20号、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)を議案とします。
お手元の冊子、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)をご参照願います。
栗原教育総務課長、ご説明等お願いいたします。
- 栗原教育総務課長 それでは、議案第20号、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)についてご説明いたします。
立川市第2次学校教育振興基本計画につきましては、平成27年5月14日の第9回教育委員会定例会において、パブリックコメントの内容と市の考え方、また、平成27年3月の文教委員会で報告いたしました計画素案から修正した主な内容につきましてご報告いたしました。6月25日の文教委員会へ計画原案を報告し、委員からいただきました意見を反映したものが本日の計画案となります。本日の教育委員会で計画を決定した後は、速やかに冊子を作成し、市政情報コーナー等に備えるとともに、ホームページで市民にお知らせいたします。また、今後は決定された計画に基づき各施策を展開し、学校教育の振興に努めてまいります。
説明は以上となります。
- 福田委員長 ありがとうございます。議案第20号、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)の説明を終了します。議案第20号は、立川市第4次長期総合計画・前期基本計画に基づく分野別の個別計画策定のためでございます。5月14日の第9回定例会で委員の皆様にはご協議いただき、概ねご承認をいただいております。
これより最終の質疑及び協議に移ります。全体を通してご質疑をお願いいたします。
はい、田中委員。
- 田中委員 先ほど栗原教育総務課長から説明がございました。立川市第2次学校教育振興基

本計画(案)を拝見させていただきました。その中で、今後5年間の事業の展開と方向性として、基本方針1の学校教育の充実を含めて3本、あと基本方針を受けながら基本施策として学力向上を含めて9本、非常に詳細にわたってそれぞれの事業の取組について明示されておりました。改めて当市の児童・生徒12,400余名の教育の質、学びの質を担保する、そのような基本方針であり基本施策であると考えております。

したがって、今後5年間この基本計画をもとに、学校教育の充実、教育支援と教育環境の充実、並びに学校・家庭・地域の連携による教育力の向上を図れるようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

○福田委員長 ほか、ございますか。小町教育長。

○小町教育長 この学校教育振興基本計画につきましては、委員の皆様から様々なご意見をいただきまして、なおかつ議会からもご指摘いただいた部分を整えまして最終案としたものでございます。特に立川市の学校教育に関する課題を明確に、現場を訪問する中で教員の皆様と意見交換をする中で課題を把握して、その解決に向けて実動する5年間の計画としたものでございます。

特に今回は第4次長期総合計画で立川市の将来像が久方ぶりに変わったというところがございます。それにあわせて人材を育成するという意味で既に着手している部分でございますけれども、立川市民科ということで、学力の向上とともに立川のまちを担う市民を育成するという視点を同時並行的に入れながら、長期的な立川市のまちづくりを支える、一人ひとりの子どもの可能性を広げるという視点を大事にしながらできた振興計画でございます。今後につきましては、この振興計画をもとにいたしまして計画的に事業を展開して、今申し上げた部分を特に力を入れながら取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○福田委員長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 ないようでございますので、議案第20号、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)の協議を終了します。

議案第20号、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)をお諮りします。

ご提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 異議なしと認めます。よって、議案(1)議案第20号、立川市第2次学校教育振興基本計画(案)は承認されました。

◎議 案

(2) 議案第21号 立川市第5次生涯学習推進計画(案)

○福田委員長 議案(2)議案第21号、立川市第5次生涯学習推進計画(案)を議案とします。

お手元の冊子、立川市第5次生涯学習推進計画(案)をご参照願います。

浅見生涯学習推進センター長、ご説明お願いいたします。

○**浅見生涯学習推進センター長** 議案第 21 号、立川市第 5 次生涯学習推進計画(案)についてご説明いたします。

立川市第 5 次生涯学習推進計画につきましては、平成 27 年 5 月 14 日の第 9 回教育委員会定例会において、パブリックコメントの内容と市の考え方、また、平成 27 年 3 月の文教委員会で報告いたしました計画素案から修正した主な内容につきましてご報告をいたしました。6 月 25 日の文教委員会へ計画原案を報告し、委員からいただきました意見を反映したものが本日の計画案となります。本日の教育委員会で計画を決定した後は、速やかに冊子を作成し、市政情報コーナー等に備えるとともに、ホームページで市民にお知らせします。また、今後は決定された計画に基づき各施策を展開し、生涯学習の推進に努めてまいります。

説明は以上となります。

○**福田委員長** ありがとうございます。議案第 21 号、立川市第 5 次生涯学習推進計画(案)の説明を終了します。本議案につきましても、議案第 20 号と同じく、第 9 回定例会においてご協議いただき、概ねご承認をいただいております。

これより最終の質疑及び協議に移ります。全体を通してのご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○**田中委員** ただいま浅見生涯学習推進センター長から説明がございました。立川市第 5 次生涯学習推進計画(案)の策定ありがとうございます。本計画案については、ご承知のように平成 22 年度から平成 26 年度までの第 4 次生涯学習推進計画をもとにして実施し、そして成果並びに今後の課題の改善を踏まえながら、さらに国及び東京都の動向を踏まえたしっかりした今後 5 年間の推進計画(案)であると受け止めております。

とりわけ計画の内容の中で、「市民の共学・協働に育まれたまちづくり」を目指した重点施策として 3 本、「いつでも、だれでも学べる身近な学習環境の整備」を含めて 3 本の施策目標が示されております。これらについては、いずれも計画的、総合的な推進計画案であって、かつ 18 万市民の願いに応える計画であると考えております。したがって、今後 5 年間、是非、本推進計画に基づいて事業を進めるようお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

○**福田委員長** ほか、ございますか。教育長。

○**小町教育長** 第 5 次生涯学習推進計画につきましては、市議会から答申をいただきまして、それに沿いまして検討、分析、リサーチを重ねながら作った計画でございます。特に施策に関しましては、網羅的ではなくて重点化して施策を組み立てたという考え方が中心となっています。その中で学社融合というご指摘が強く出ておりまして、学校教育と生涯学習、社会教育を融合するということでございます。学びの機会を増やして学びのネットワークを広げるということは今までも取り組んできたわけでございますが、その成果を地域や学校教育の中で活かすというような新しい視点を盛り込んだ計画になっているところでございます。

今日も第五小学校の学校訪問ということで行ってまいりまして、大変たくさんの学校ボランティアの方に授業の中に入っていただいております。子どもたちの学びを支えるという意

味では重要な部分でございますし、また、ボランティアをしていただいている市民の方も、新たな学びがあるとか、生きがいになっているというようなご意見をいただいていることもございます。こういったことを考えますと、生涯学習の一つの役割としてそのコーディネーター的な役割が重要になってくると思っております。そんな展開の施策も盛り込んだつもりでございます。

今後は、今申し上げたとおり、学習というのはまさに生涯続く学習でございます。主体的な学習が必要であるということがございます。そういったものを行政としてはサポートしつつ、学んだことを活かせるような場面につないでいくという新しい役割にも取り組んでまいりたいと考えております。

○**福田委員長** 学社融合という視点の施策の展開ということでございます。

ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** ないようでございます。議案第21号、立川市第5次生涯学習推進計画(案)の協議を終了します。

議案第21号、立川市第5次生涯学習推進計画(案)、をお諮りします。

ご提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** 異議なしと認めます。よって、議案(2)議案第21号、立川市第5次生涯学習推進計画(案)は承認されました。

◎議 案

(3) 議案第22号 立川市第2次図書館基本計画(案)

○**福田委員長** 次に、議案(3)議案第22号、立川市第2次図書館計画(案)を議案とします。

お手元の冊子、立川市第2次図書館基本計画(案)をご参照願います。

土屋図書館長、ご説明お願いいたします。

○**土屋図書館長** 議案第22号、立川市第2次図書館基本計画(案)についてご説明申し上げます。

立川市第2次図書館基本計画につきましては、平成27年5月14日の第9回教育委員会定例会において、パブリックコメントの内容と市の考え方、また、平成27年3月の文教委員会で報告いたしました計画素案から修正した主な内容につきましてご報告いたしました。6月25日の文教委員会へ計画原案を報告し、委員からいただきました意見を反映したものが本日の計画案となります。本日の教育委員会で計画を決定した後は、速やかに冊子を作成し、市政情報コーナー等に備えるとともに、ホームページで市民にお知らせいたします。また、今後は決定された計画に基づき各施策を展開し、地域の情報拠点として暮らしに役立つ身近な図書館の実現と図書館行政の一層の推進に努めてまいります。

説明は以上でございます。

○**福田委員長** ありがとうございました。議案第22号、立川市第2次図書館基本計画(案)の説

明を終了します。本議案につきましても、第9回定例会でご協議いただき、概ねご承認をいただいております。

これより最終の質疑及び協議に移ります。全体を通してのご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○**田中委員** ただいま土屋図書館長から説明がありました。本基本計画案については、平成25年度の立川市市民満足度調査に応える基本計画(案)であると思います。すなわちこの中で、「知」の集積拠点として、行きたくなる図書館、そして「人の力」でつなぐ図書館、これを目指して、「まちづくりは人づくりから」のキャッチフレーズのもとに具体的に事業を展開されております。とりわけ図書館サービスの拡充の観点から、庁内各部局や地域関連機関との連携・協力から積極的な情報発信までの5本の連携・協力、それにサービスの提供、情報発信と。これらについていずれも具体的に取組を明示されていてすばらしいと思っております。

したがいまして、18万市民の皆さんに応える意味でも、今後5年間この基本計画をもとに進められるようよろしくお願い申し上げます。

○**福田委員長** ほか、ございますか。教育長。

○**小町教育長** 第2次図書館基本計画ということで様々なご意見をいただきましてありがとうございました。議会も含めてご意見を反映した最終版となっています。特に図書館の役割といたしましては、地域の情報拠点としての役割はもちろんでございますけれども、ネットワークということで周りの市民にも呼びかけまして、なかなか図書館へ通にくい地域の方にも隣接の市の図書館が利用できるというような環境を整えてきたところでございます。これからはその内容の質を深めるという取組が必要であると今後の展開として考えているところでございます。それとともに、図書を貸し出すということとともに、地域とか市民の課題解決に向けて、いかに図書館から情報発信というか呼びかけるかということが今後の図書館の大きな役割になってくるかと思っています。

先ほど来申し上げているとおり、主体的な学びというのは生涯続くわけで、それをサポートする拠点としての図書館の役割があります。図書館に足を運びにくい方も含めまして利用しやすいサービスを提供するということはもちろんのこと、逆に図書館から提案型の展示を含めまして、図書館の新しい機能として課題解決、学習支援型の図書館という展開も今後は求められているところでございますので、そんな施策もこの中に新しく盛り込んだところでございます。このような時代を先取りするような取組も含めまして、生涯の学習を支える情報拠点としての役割を果たしていきたいと考えているところでございます。

○**福田委員長** ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** ないようでございます。議案第22号、立川市第2次図書館基本計画(案)の協議を終了します。

議案第22号、立川市第2次図書館基本計画(案)をお諮りします。

ご提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○**福田委員長** 異議なしと認めます。よって、議案(3)議案第22号、立川市第2次図書館基本計画(案)、は承認されました。

◎議 案

(4) 議案第23号 立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)

○**福田委員長** 議案(4)議案第23号、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)を協議します。

お手元の冊子、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)をご参照願います。

引き続き土屋図書館長、ご説明等お願いいたします。

○**土屋図書館長** 議案第23号、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)についてご説明申し上げます。

立川市第3次子ども読書活動推進計画につきましては、平成27年5月14日の第9回教育委員会定例会において、パブリックコメントの内容と市の考え方、また、平成27年3月の文教委員会で報告いたしました計画素案から修正した主な内容につきましてご報告いたしました。6月25日の文教委員会へ計画原案を報告し、委員からいただきましたご意見を反映したものが本日の計画案となります。本日の教育委員会で計画を決定した後は、速やかに冊子を作成し、市政情報コーナー等に備えるとともに、ホームページで市民にお知らせいたします。また、今後は決定された計画に基づき各施策を展開し、全ての子どもたちがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書を行うことができるよう、子どもの読書環境の整備と充実に努めてまいります。

説明は以上でございます。

○**福田委員長** ご説明ありがとうございます。議案第23号、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)の説明を終了します。本議案につきましても、第9回定例会においてご協議いただき、概ねご承認をいただいております。

これより最終の質疑及び協議に移ります。全体を通してのご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○**田中委員** ただいま土屋図書館長から説明がありました。本計画案もそうですけれども、これまでの3本の基本計画も上位計画である立川市第4次長期総合計画を踏まえた上での整合性を図りながら、計画的、長期的な推進計画であると考えております。したがって、今後5年間この推進計画をもとに、各種事業に丁寧に取り組んでいただくようお願い申し上げます。

○**福田委員長** ほか、ございますか。小町教育長。

○**小町教育長** 特に子どもの読書に関しましては、学力向上という面でも大きな相関関係があるということで国の分析も出ているところでございます。そんな中で学校現場の声といたしましては、低学年のうちには国語の時間が多くて読書に親しむ子どもたちも多いということでございますけれども、小学校でさえ学年が上がると、どうしても読書に親しむ子どもたちの

数が減ってきます。特に中学校に上がるとその傾向がさらに強くなってしまうというような現場の声がございます。そうした中で、学校図書館と地域の図書館が連携するということで、定期的に本を届けるという事業を小学校で先行的に始めて中学校まで広げたところでございます。

そのような試みをベースにしながら、これからは具体的に本の紹介とか含めまして、子どもたちが子どもたちに本の紹介をする、子ども同士の間で読書を広げていく、本を読む楽しさを広げていく、そうした試みも今後必要になってくるかと思っています。そのような中で、ますます学校教育と生涯学習の中での図書館の連携の役割というのは大変大きくなるかという部分でございます。ベースはできておりますので、そのベースの上には是非さらに未読率を減らすという大きな目標の達成のために取り組んでまいりたいと考えています。

○福田委員長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 ないようでございます。議案第23号、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)の協議を終了します。

議案第23号、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)をお諮りします。

ご提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 異議なしと認めます。よって、議案(4)議案第23号、立川市第3次子ども読書活動推進計画(案)は承認されました。

◎報 告

(1) 東京ベーシックドリルについて

○福田委員長 報告に入ります。

報告(1)東京ベーシックドリルについての報告でございます。

お手元の資料、東京ベーシックドリルを活用した調査、分析編をご参照願います。

泉澤指導課長、ご説明等お願いいたします。

○泉澤指導課長 それでは、東京ベーシックドリルを活用した調査について、結果がまとまりましたのでご報告いたします。

この東京ベーシックドリルを活用した調査は、昨年度初めて7月に実施して9月にご報告申し上げましたけれども、今年度は2年目に入りまして、立川市としては東京都のステップアップ推進事業のほうを受けております。このステップアップの事業の中でベーシックドリルを活用した効果検証ということも入っておりますので、今年度につきましては5月に、小学校2年生から中学校1年生を対象として全ての児童・生徒にこのベーシックドリルの診断シートを解いてもらいました。

表紙をめくった1枚目のところに、その結果ということで各学年の全体の平均正答率及び領域別の正答率を出させていただきました。

基本的にベーシックドリルというのは、例えば小学校2年生は、1年生のときの学習内容の載ったプリントを解きます。したがって、前の学年の学習内容について調査をしているということです。5年生、6年生、中学1年生につきましては、ベーシックドリルが小学校4年生までしか診断シートがございませんので、この3つの学年については4年生の問題を解いております。したがって、5年生、6年生、中学1年生は同じ問題を解いた結果がこのような形になっているとご理解ください。

前年度との比較では、小学校2年生がやや正答率が下がりましたが、それ以外の学年につきましては前年度の結果を上回っております。また、中学1年生も小学校4年生の問題を解いて概ね74%が平均正答率ですので、このような結果になったところです。ちなみに昨年度の実施では、小学校3年生の結果に非常に課題がございましたけれども、今年度は少し上がったという状況で、各学校が算数を意識した授業改善や補習に取り組んだ成果と考えております。

次のページからは各学年の結果を同じ形式で分析、まとめたものになっております。基本的に左側のボックスは当該学年の全体の傾向や領域別の傾向、及び下の段で正答数の分布の割合ということでA層、B層、C層、D層と仮に分けております。下のほうに例がございますように、正答率が25%ずつで4区分にして、上位をA層、下位をD層としたところでございます。また、右側のボックスのところでは課題のある設問ということで、子どもたちの正答率が低い問題がどのような問題で、どの程度であったのかということをご載せさせていただきました。

ベーシックドリルの採点方法は、例えば2年生の「回数と計算」のところでは6問問題がございます。この6問全てを正解した場合のみ○ということで採点することになっております。例えばどこか1問だけ間違えてしまった場合は、この大きな1番全て間違いということで集計をするような形になっておりますので、その点はお含みおきください。2年生から3年生、4年生、5年生とページをめくっていただきますとそれぞれ分析、中学1年生につきましても、どの問題が弱かったのかということと同様な形でさせていただきます。

なお、最終ページのほうから見ていただきますとそれぞれの学年の問題を載せておりますので、各学年でどのような問題を解いているのかという意味でご覧いただければと思います。

なお、この問題の表記は、「1年 算数」、「2年 算数」という書き方をしていますので、どの学年の内容の問題なのかということになります。例えば「1年 算数」は2年生が解いた問題となっているところでございます。

報告は以上でございます。

○福田委員長 ありがとうございます。東京ベーシックドリルについての報告を終了いたします。

これより質疑に移ります。ご報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 指導課中心に東京ベーシックドリルの診断をされて、回を重ねるたびにそれぞれ

の学校が非常によく取り組んでいる、またその成果がきちんと表れているということで、本当に心から感謝申し上げます。

その中で1点だけお伺いしたいのですが、先ほど泉澤指導課長からお話がありましたように、1つの問題の6問全てが正解したのみ正解と。その6問の中で1つだけでも間違うとそこは全てだめになるということですが、この問題の関連性というか質というか、どういふことでそのようになっているのか。普通であれば6問あって1つでも正解があればそれはカウントされると私どもは解釈するわけですが、6問全て正解したもののみが正解の対象に入れていくということですが、その辺をもう少し詳しく説明をお願いいたします。

○**福田委員長** 泉澤指導課長、お願いいたします。

○**泉澤指導課長** この東京ベーシックドリルというのは、小学校を卒業するまでにこうした問題を全員が全て解けることを目標として編成されたものでございます。具体的な問題の内容につきましては、いわゆる教科書の例題レベルの問題がここに記載されているということで、そうしたところで最終的な東京都の目標では全員が全て解けるようにさせたいということで、コンセプトで作成されているものですので、診断シートにつきましても通常のテストとは異なる形で採点の基準を設けているところでございます。

○**福田委員長** 田中委員、いかがですか。

○**田中委員** よく分かりました。このベーシックドリルの診断の背景には、6年間でこれだけ修得するというので、従来の課程主義ではなくて修得主義で今後東京都は考えていらっしゃるのでしょうか。つまりどういうことかといいますと、義務教育ですから、学力の差があったとしてもそれぞれの学年に進級するわけです。小学校は6年間を終えると中学校に進学するというシステムになっている、つまり課程主義といいます。そういうのではなくして、今後東京都としては課程主義も含めながら修得主義、つまりこれだけしっかり修得して次の学年にいてください、あるいは進級させてください、そういう考え、意図があるのでしょうか、その辺りをお伺いしたいと思います。

○**福田委員長** 泉澤指導課長、お願いいたします。

○**泉澤指導課長** 私どもで把握している範囲では修得主義に移行するというお話は聞いておりませんので、これまでと同様であると考えています。ただ、子どもたちにとって基礎的・基本的な内容は全ての子どもたちに定着させたいということで、ベーシックドリル自体は診断シートのほかに練習用のシートがございます。間違えた箇所についてはその練習用のシートで繰り返し練習して身に付けていくことを目的としておりますので、これは一つのある時点での結果を表して、そこからいかに子どもたちが学習した内容を修得させていくのかという一つの道具ではないですが、教材として活用していければと考えております。

なお、現場からの声では、学習してから調査を行うまでに、ここに出ているような問題を扱うような領域が少なく、子どもたちも忘れてしまっているというような状況があるのではないかとこの声も聞こえてきております。それではいけないので、私どもとしては学んで理解したことをずっと定着させるということが大切だと考えておりますので、そうした視点

で補充的な学習等にも力を入れているところでございます。したがってこのベーシックドリルは、私どもが狙っていることに即したドリル教材ですので、これは是非活用しながら子どもたちの基礎を定着させていきたいと考えております。

○福田委員長 田中委員、いかがですか。

○田中委員 丁寧な説明ありがとうございました。児童・生徒一人ひとりにしっかり学習を定着させたいという、こういう本来の東京ベーシックドリルの趣旨を踏まえながら進めていただいていることについて感謝申し上げます。今後とも引き続きよろしく願いいたします。

○福田委員長 ほか、ございますか。小町教育長。

○小町教育長 これは学力向上に向けた試みの一つでございます。特に子どもたちの学びの定着というところは、どこに課題があるということを各学校、学年ごとに明確にする一つのツールでございます。先生方の中ではつまづいた所の共通点を発見できたという声も出ておりました。授業改善に今後結び付けていきたいというご意見もございました。そういったご意見が出てくるのがこの診断シートを実施した狙いでもあるわけでございます。

一人の子どものある時点での学力を測定するという結果ではございますけれども、この結果を詳細に分析いたしまして、授業の方法であるとか質であるとかを高めることがこの本来の狙いでございますので、そんなところを高めていければいいかと思っているわけでございます。特に子どもたちはこういった問題に関しましては先ほど課長から申し上げた練習ドリル等ございますので、そういったものを通じて、つまづいている所を繰り返し学ぶことによってそれをまた定着に結び付けるということで、最終的に子どもたちの中から「分った、できた、うれしかった」というような声が上がるといったような指導を展開してまいりたいと思っております。

○福田委員長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 ないようでございます。是非、児童・生徒の学力向上に資するとともに、いま教育長からもありましたように、先生方の授業改善に資するようお願いいたします。毎年向上していていることは大変うれしく思います。まだ課題もずいぶんあるようでございますけれども、継続をさせながらさらなる学力、特に基礎・基本の定着をお願いいたします。

それでは、東京ベーシックドリルについての質疑及び報告を終了します。

◎報 告

(2) 平成27年第2回立川市議会定例会報告について

○福田委員長 次に、報告(2)平成27年第2回立川市議会定例会報告についてでございます。

お手元の資料、1から3でございますが平成27年第2回定例会日程表等をご参照願います。

新土教育部長、ご説明等お願いいたします。

○新土教育部長 6月30日に終了しました平成27年第2回市議会定例会について、報告させていただきます。本日は口頭での概略報告とさせていただきます。議会事務局が作成いた

します議事録が作成された段階で詳細はそちらをご覧くださいといたします。

資料1が日程でございます。平成27年6月11日から30日までの日程で開催されました。

6月11日から16日までの4日間で一般質問が行われまして、23人の議員より質問があり、質問内容につきましては、資料3の一般質問順序表のとおりでございます。教育に関する質問について、順序表に概ね沿って簡単に口頭でポイントのみを報告させていただきます。

まず、いじめ問題についてでございます。市内小学校の6年生のいじめに対する指導に関するアンケートについての経過と電話等の内容はということでございました。これについては、5月の教育委員会定例会で報告をしているところでございますので、その内容に沿った形で答弁いたしました。続きましていじめ問題全体への対応としましては、各学校におきまして学校いじめ防止基本方針を定めておりまして、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めているということ、学校と家庭、地域が連携した対応を図っておりまして、学校のおいじめ防止対策委員会等での情報共有やスクールカウンセラー等の活用を通して、学校における組織的な対応を図っていると答弁いたしました。

続きまして、特別支援教育につきましては、特別支援教育実施計画の進捗状況及び特別支援相談員の役割と状況等の質問がございました。計画は全体で39の取組項目について実施しているところでございまして、新規のものとしては巡回相談の開始や特別支援教育連絡会の設置等でございます。2年目の平成27年度におきましても着実な推進を図っていききたいと考えていると答弁しました。また、特別支援相談員ですけれども、これは元特別支援学校教員を27年度に配置しておりまして、配慮が必要な児童・生徒や特別支援学級での指導、支援や助言、相談の対応を行っていることと答弁しました。また、特別支援教育の中での特別支援教室の導入スケジュール等につきましても、5月の教育委員会定例会で報告しておりますので、その内容に沿った形で答弁したところでございます。

続きまして、学校でのLGBT対応についてでございます。性的マイノリティの児童・生徒への対応ということでございますが、これは平成27年4月に文科省より性同一性障害に係る児童・生徒に対するきめ細かな対応の実施についての通知が出ましたので、その通知の対応あるいは学校での支援体制についての質問でございます。市では、市内小中学校長へ相談体制や学校生活の各場面での支援について適切に対応するよう通知内容を指示したところでございます。学校におきましては、児童・生徒の様々な課題に対する対応としまして、サポートチームや相談体制を整えておりまして、既存の組織を活用しているところであると。また、研修につきましては、昨年引き続き人権研修の中で実施していくと答えました。

中学校の部活動について、部活動の意義や外部指導員についてでございます。部活動は生徒の自主的、自発的な参加により行われるもので、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであるということ。外部指導員につきましては、人数、募集方法、謝礼金額、指導員研修、体育協会との連携の質問がございまして、現状について答弁したところでございます。

また、小学校の学区の見直し、これは第三小学校の一部を第七小学校へ変更の検討状況と

いうことでしたが、現在のところは具体的な学区の見直しの検討までは至っていませんが、今後も人口動態などの分析を続けていく考えであると答弁したところでございます。

学校特別教室のクーラー設置におきましては、大規模改修を実施する際には学校の全ての特別教室へ空調機を設置しておりますが、現在未設置の理科室や図書室、家庭科室への空調機設置については、より良い教育環境を確保する観点から課題として捉えており、全ての特別教室を対象とする補助制度の拡充について東京都へ要請していくと答弁したところでございます。

柴崎会館の更なる活用についてですけれども、柴崎会館の行政の利用回数は近隣の滝ノ上会館や羽衣中央会館に比べて少ない現状でございますので、本年4月から子育て広場の利用が始まりましたけれども、高齢世代、子育て世代、地元の文化団体等の利用の拡大に努めていくという答弁をしたところでございます。

第三中学校前道路の安全対策でございます。これまでの経過と今後の改善に向けた協議ということでございます。道幅が狭く交通量が多いことから、安全面の課題は認識しておりますが、路面塗装など現状可能な安全対策となっているところでございます。学校や保護者等と共同点検を行い改善に向けた協議を行っていますが、引き続き関係機関と連携しながら警察にも重ねて要望していきたいと答弁したところでございます。

東京オリンピック・パラリンピックの教育については、教育推進校というのがありますが、どのような取組を行っているのかという質問でございます。現在、小中で9校が推進校と指されました。総合的な学習の時間においてオリンピック・パラリンピックの歴史や参加国の文化、あるいはオリンピック・パラリンピックのアスリートやスポーツ指導者との交流など各学校で創意工夫を活かした学習活動を進める予定であると答えたところでございます。

続きまして、18歳選挙権導入にあたり主権者教育の充実についてでございますが、現在の選挙権に係る取組としましては、小学校3年生及び中学校3年生の社会科で学習しているということ、主権者教育としましては、立川市民科の学習を通して、まちに愛着をもち、まちに貢献しようとする意欲や態度を育成していくことが重要であると考えているということ、今後、法改正に伴います学習指導要領等における指導事項の変更について、それを注視していきたいと答えたところです。

コミュニティ・スクールにつきまして、市の認識と学校、地域の実情を踏まえたモデル校の検討はどうかということでございます。現在は学校評議員制度でございます。校長の学校運営に対する建設的な意見を受けることができまして、各学校の教育活動の充実につながっていると考えております。市では平成26年度よりネットワーク型の学校経営の構築を進めておりまして、その中で学校と地域の連携体制づくりを行っているところでございます。コミュニティ・スクールの導入におきましては、学校と地域の相互理解に基づいた良好な関係を図っているところでございまして、ネットワーク型の学校経営の推進を通しまして環境整備を図るとともに、コミュニティ・スクール導入に向けた課題整理を行った上でモデル校の検討を行ってまいりたいと答弁したところでございます。

図書館資料の受け渡しカウンターについてでございますが、これは今現在のインターネット予約の状況や図書館空白地域の対応等でございますが、図書館の予約受付は平成26年度は34万件あったのですが、そのうちの7割がインターネット予約でございます。今後も増えると考えております。図書館空白地域対策としましては、相互利用ということで国立市、昭島市、武蔵村山市との相互利用連携を始めたところでございます。平成27年度におきましても国分寺市、東大和市とも開始しております。受け渡しカウンターの設置につきましては、場所の選定、巡回体制、予算等、費用面も含めた検討が必要となると答えたところでございます。

E S D（持続可能な開発のための教育）の推進について、どのように把握しているかという質問でございます。E S D教育は先行き不透明なまさに持続困難な時代の中でその開発に向けた持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であると認識しているところでございまして、今後の国の動向や時期、学習指導要領の改訂内容を踏まえて検討すると答えたところでございます。

学校の非構造部材の耐震化についてでございます。体育館等の照明器具及びバスケットボールのゴール等の落下防止対策につきましては現在設計を進めておりまして、今後この設計に基づく工事についても補正予算を計上しまして、平成27年度内に非構造部材の耐震化工事を完了できるよう取り組んでいく予定であると答弁いたしました。

教育行政について、3点ございました。学力向上についてでございますが、教育委員会定例会において報告しております例えば平成27年度より小学校支援員の配置を行う等、定例会での報告に基づく内容で答弁したところでございます。また、学力向上を図るためには、これらの取組と連動した家庭教育の充実が重要であり、保護者へのさらなる啓発をしていくということでございます。ICT教育について、導入目的、指導方法等でございますが、ICT環境の整備によりまして小中学校における授業改善が進み、児童・生徒の多様な学習の創造が期待できる、そのためには教員がICTを効果的に活用した授業づくり及び展開を行う授業力を身に付けることが重要であり、小・中学校の教員にこうした授業力を身に付けさせるために、ICT機器の操作に関する研修や授業力を高める研修においてICT教育を活用した授業研究を実施していきたいと答えたところでございます。

学校におけるAED教育についての質問でございます。AEDに係わる指導につきましては、中学校での宿泊防災訓練及び小・中学校の地域防災訓練において、消防署などと連携した体験的な学習の中で実施しているものです。教員には新規採用の教員研修や夏季の教員研修、各学校における研修においてはAEDの取扱いについて研修を行っているところでございます。今後も教職員のみならず児童・生徒が、学校及び学校以外においても日常的にAEDの存在を意識しまして、万が一の場合に備えることができるような指導をしていきたいと答弁したところでございます。

最後に学校給食の食物アレルギーについて、市としての取組はという質問でございました。学校給食は学校給食法に基づき学校教育の一環として実施しているところでございます。学

校は医師の指示に基づき必要な措置を行うとともに、学校と保護者の間で十分な意思疎通を図ることが重要であります。アレルギー対応方針に基づきまして、児童の情報共有や学校での配膳時などのダブルチェックの徹底に努めているところであると答弁いたしました。

これが一般質問の全体的な概要でございます。

続きまして、本会議が6月18日に行われました。教育に関するものとしましては、立川市立第六小学校大規模改修工事建築の請負工事の議案を提出しまして、議決されました。また、併せて補正予算も提案されまして、教育に関するものとしましては、平成27年当初に東京都の補助金が決定したものがございますので、それについてこの6月議会で補正を提案させてもらっておりまして、補助金関係におきましては学力ステップアップ事業の指導員謝礼と学力向上事業学校と子どもの支援員の謝礼、特色ある学校づくり交付金、オリンピック・パラリンピック教育推進事業等でございますが、こういうような補助金を補正いたしました。その他、学校ICT教育としましては中学校LAN整備、タブレット等の整備でございますが、機器の台数増や機種の変更等で補正をしたところでございます。改修工事等につきましては、第一小学校の防球ネット工事、市指定の史跡満願寺跡の外構等整備工事、高松会館玄関ホール空調機器設置工事、多摩川図書館テラス補修工事等の工事について補正を提案しまして、全て認められたところでございます。

最後に文教委員会でございます。6月25日に開催されまして、内容は本日の資料2の文教委員会様式2のとおりでございます。

報告事項は、教育委員会定例会で既に説明しております内容でございますので、説明は省略させていただきます。なお、学校教育振興基本計画の中で質問がございまして、特別教室でございますが、東京都公立学校施設冷房化支援特別事業実施要綱が改正されまして、その部分についての質問がございました。これは平成27年6月15日に東京都から通知が来たものでございまして、特別教室の冷房化の対象事業を拡大したというものでございます。本会議での質問の中で、「東京都へ要請しております」ということでございましたけれども、この後東京都から冷房化の事業拡大についての通知が来たということをご答弁いたしました。

なお、所管事項のピアノ等の調律については、学習館において一部音の具合が悪いのではないかと質問がございまして、年間を通して定期的に調律を行っていることを答弁いたしました。

非常に簡単ではございますが、以上のとおりです。

○**福田委員長** ご説明ありがとうございました。平成27年第2回立川市議会定例会報告についての報告を終了します。

これより質疑に移ります。ご報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、小町教育長。

○**小町教育長** いま報告した内容でございます。特に一般質問の部分では、学力向上、いじめの問題、施設の問題等がだいたい毎回議会の中でご質問をいただく部分でございますけれども、今回は、法律改正を受けて主権者教育ということで、18歳選挙権の導入に絡みまして新

しい質問として受けたところでございます。立川市におきましては、先ほど教育部長からも報告したとおり、立川市民科ということで地域を学んで関わって貢献する、そんな市民を育てるということ、なおかつ、中学校区ごとに地域特性を活かしながら取り組んでいる、そういったことがベースにあって主権者教育ということに結び付けていきたいというような答弁したところでございます。

子どもたちは地域を学ぶ中で、魅力発見ということで地域の良いところを探すということとともに、課題の発見も同時に行っておりまして、その課題につきましては自分たちで調べ学習を通して具体的な提言というようなことを発表という形でクラスの中で総合的な学習の中で行っているという報告も受けています。そういったベースをしっかりとつくることによって主権者教育に結び付けていきたいと考えています。そんな中で模擬投票であるとか、模擬議会であるとかというようなご提案をいただいているところでございます。そういう取組は今申し上げたような取組をしっかりとベースとしてつくった暁にあるものだと考えておりますので、そのような答弁をさせていただいたところでございます。今後とも立川市民科を通して、主権者意識を持った市民を育ててまいりたいと考えています。

○福田委員長 ほか、ございますか

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 ないようでございます。平成27年第2回立川市議会定例会報告についての質疑及び報告を終了します。

◎その他

○福田委員長 次に、その他に入ります。

その他、ございますか。

泉澤指導課長、お願いします。

○泉澤指導課長 姉妹市である大町市との中学生の交流事業ということで、今回、7月18日、19日の土曜日、日曜日に1泊2日で大町市に出かけて、中学生サミットということで行ってまいりますので、こちらについてご報告させていただきたいと思っております。

まず、テーマですけれども、「都市と農村の将来に向けた交流の在り方」ということで、立川市内の9校の中学生の代表、主に生徒会役員になりますけれども、各校2名ずつ計18名を大町市に派遣してまいります。大町市の中学生も18名ということで、合わせて36名でこのテーマについて話し合いを行います。その前段として、初日の午後にオリエンテーションをして、お互いのまちや学校について紹介をする場面があったり、また、国営アルプスあづみの公園や木崎湖を通る周辺で、双方の中学生が班に分かれて体験学習をして交流を図っていきます。翌日の午前中に先ほどのテーマについて班別に話し合いをして、最終的に、立川市と大町市の未来へ向けた若者宣言ということで、共同宣言をお互いに確認して、発表して、活動を終了するというような形で現在準備を進めているところです。

実は、去る6月27日に事前学習会ということで、本市の18名の中学生に集まってもらっ

て学習会をしました。各校を代表する子どもたちで、とても立派に、自覚もあって、発言や行動をしていてとても頼もしく思いました。当日、大町市の子どもたちとしっかり交流して、未来につながる交流へと広げられればと考えているところでございます。

実際の実施後の報告につきましては、まとまったところで教育委員の皆様にはご報告させていただきたいと考えております。

報告は以上でございます。

○**福田委員長** ありがとうございます。7月18日から19日に大町市で実施されるわけです。立川市、大町市、姉妹都市の中学生サミットについてのご報告でございます。

ご質問をお願いいたします。小町教育長。

○**小町教育長** このサミットに関しましては、姉妹市交流、都市間交流ということで、大町市とは平成3年、姉妹市締結以来様々な展開をしてきたわけでございますけれども、まちの未来を担う子どもの交流という面では、今までの交流の中ではなかなか積み上げができてこなかった部分でございます。そういった中で、まちを担う、未来を担う子どもたち同士の交流ということで、まさにパイオニア的な事業になろうかと思っています。3.11の大きな地震の際は、大町市からの支援物資をいただいたところでございます。このような災害時のみならず、日常的な交流というのは今後都市間交流ということでグローバル化の中で求められてくる部分かと思っています。

大町市は、単に農業だけではなくて様々な産業を誘導した中でしっかりとしたまちづくりを行っているところでございます。特に教育に関しましては、長野は教育県と言われていまして、大変に教育に関する施策も充実しておりますし、子どもたちの力はしっかりと付いているという報告を受けておりますし、また健康という面では、長野県全体をとおして健康事業を伸ばすという取組をしているわけでございます。その意味で立川市も学ぶ部分が多いわけでございます。そういった意味で子どもたちの段階から姉妹市の交流を深めたいというのが狙いでございます。この狙いを子どもたちもしっかりと受け止めていただきまして、事前学習ということで立川市のことをしっかり調べて大町市の中学生にプレゼンするということの資料作成なども事前の学習として展開しています。そんな中で、まさに立川市民科で取り組んでいます地域を学んでそれを伝えるということの取組にもなっているわけでございます。

各校2名参加ということで生徒会長を含めての代表ということになるわけでございますけれども、単に2名の参加だけではなくて、準備の段階から、地域を学ぶということに関しましては全校の学びにも広げているという報告も受けていますし、また、帰ってきてから全校の前で報告するというような方針だということも校長先生方から聞いているところでございます。新しい事業でございますので、しっかりとした計画の中で実施してまいりたいと考えているところでございます。

○**福田委員長** ほか、ございますか。伊藤委員、お願いします。

○**伊藤委員** とても有意義な事業ではないかと思えますけれども、当然、参加した子どもたちだけではなくて全校に報告するというのもありましたが、記録とかというようなことに関

しては教育委員会のほうからフォローするとか、撮影ですとかそういうようなことに関して
はどちらが支援するという形になるのですか。

○泉澤指導課長 中学校の先生方3名に引率していただくとともに、私ども事務局も引率に関
わってきますので、その中で記録はとってまいりたいと考えているところでございます。

○伊藤委員 結果だけではなくて、できれば報告が行われた過程についてのことも報告してい
ただくととてもよろしいかと思っておりますので、お願いいたします。

○福田委員長 これは、いずれ要項やしおりを作成すると思いますが、それをまたご提示願
います。

ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○福田委員長 その他ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

◎閉会の辞

○福田委員長 次回の日程確認を行います。次回、平成27年第14回立川市教育委員会定例会
を平成27年7月23日木曜日、午後1時半より、302会議室にて開催いたします。

以上で、平成27年第13回立川市教育委員会定例会を閉会いたします。

午後2時38分

署名委員

.....

委員長